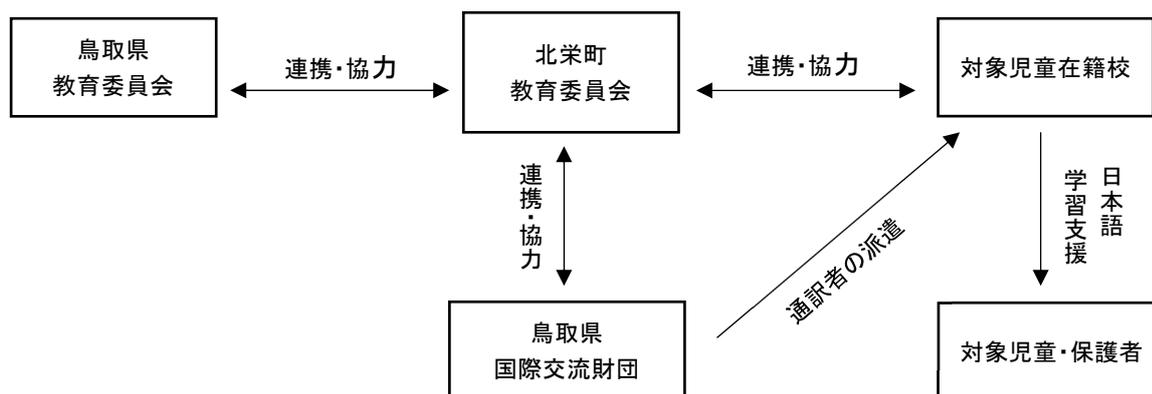


令和4年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
 事業内容報告書の概要

地方公共団体名【 北栄町 】

令和4年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること
- (2) 在籍校内で日本語指導の担当者を定め、町から外国語通訳支援員を配置するなど、対象児童が安心して日本での学習に取り組む、学校生活を送れるような体制を整えた。
 - (3) 対象児童の日本語力を把握し、児童の実態に合わせた教育課程と個別の指導計画を作成して、日本語指導を行った。
 - (4) 今年度の外国人児童生徒の受け入れ状況と本事業を活用した支援の状況について本町のHPで紹介したり、在籍校の学校だよりや町内の園長や学校長が集まる会で対象児童生徒について紹介してもらったりした。
 - (7) 対象児童と母語が通じない支援者として意思疎通を行うときには、タブレット端末の翻訳機能を使用した。在籍学級で行う教科学習ではデジタル教科書やパワーポイントを活用し、日本語を介したやりとりや学習内容を理解しやすくするための支援を行った。
 - (10) 対象児童の母語がわかる外国語通訳支援員を派遣し、学校での学習や生活の中で日本語がわからないときの通訳や、友達とトラブルがあったときの気持ちの聞き取りや保護者との情報交換の際に母語で会話をするなどの支援を行った。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること
- (2) 日本語指導を行う指導者を固定したことで、対象児童の日本語力の状態を正確に把握することができただけでなく、対象児童との人間関係を築くことができたことから、対象児童が日本語学習に対して意欲的に取り組み、日本語の基礎は身に着けることができた。今後は対象児童の日本語力をさらに上げていくために、校内の指導体制を再検討する必要がある。
 - (3) 対象児童に必要な日本語力や学力を身につけるために特別の教育課程を編成し、個別の指導計画や日本語指導計画を作成して学習を進めたことで、基本的な日本語力を身につけることができた。しかし、日本語を使って自分の思いや考えを表出する力は簡単には身につけられない。また、来日した際の年齢が高いほど母国の教育課程で教育を受けている時間が長くなるだけでなく、国によっては日本の教育課程と違いがあることで未習部分が多くなるため、日本語指導だけでなく教科の補充学習も必要になることから、対象児童に身につけさせる学習の優先順位をどうつけるのか判断が難しい。
 - (4) 新たな外国人児童生徒を受け入れることも想定されることから、今後も町内の学校での受け入れ状況についてHP等で発信していく。

- (7) 日本語の理解が不十分な状態であっても、意欲的に学校生活を送ることができたり、在籍学級での学習への参加に負担感を減らしたりすることができた。日本語の読み・書きへの負担が大きいため、様々な学習場面でタブレット端末を活用していくことを在籍校に働きかける必要がある。
- (10) 対象児童や保護者が外国語通訳支援員の通訳を通して、自分の思いや考えを伝えたりくみ取ってもらえたりしたことで、安心して学校生活を送ることができた。しかし、外国語通訳支援員の存在に頼ってしまい、対象児童が積極的に周りの人と関わろうとしない姿が見られるようになっているため、対象児童への支援の在り方を検討する必要がある。

本事業で対応した幼児・児童生徒数	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	0人 (園)	2人 (2校)	0人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		2人 (2校)	0人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)

4. その他(今後の取組予定等)

- ・今年度の途中から中国人以外の外国人児童・生徒も受け入れ、3校の学校が在籍校になったことから、今年度設置しなかった連絡協議会を来年度は設置し、日本語指導の実施状況や指導方法のノウハウを在籍校同士で共有できるようにするだけでなく、外国人児童生徒の義務教育終了後の進路を意識した学力保障や進路指導についても取り組んでいく。
- ・義務教育終了後の進路を明確にすることで、対象児童生徒が身につけなければいけない力が明確になることから、来年度は対象児童生徒の進路指導と学力保障についても取組を広げていく。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。